

寝屋川の廃プラスチック処理工場周辺地域が大変なことになっている。のどの痛みや湿疹、目のかゆみを訴える人々が続出し、杉並病ならぬ「寝屋川病」の様相を示しているとか。おりしも吹田市では市始まって以来の廃プラスチック処理工場建設が進んでいる。本当に大丈夫なのか？現地からレポートします。



廃プラ工場が操業して公害が広がっています、と訴える長野晃さん

「寝屋川病」で大変だ！ 次は吹田市か？

1つの企業が廃プラ処理だけで
10数億円

カラスも居なくなり、人間は、病院で点滴

「あの建物が問題の業者、リサイクル・アンド・イコル社。その向こうは4市共同リサイクル工場です。これら2つの廃プラスチック工場の後ろは第2京阪道路が建設中。この地域は廃

プラと排ガスの複合汚染にさらされるのです。本日私たちが案内してくれるのは、「廃プラ処理による公害から健康と環境を守る会」の長野晃さん。4市共同リサイクル工場とは、寝屋川市、枚方市、交野市、四条畷市。つまりこの地域の人々にとっては、他所から運び込まれる廃プラに悩み続けることになる。



向こうからハスキー犬を連れて散歩する女性がやってくる。長野さんの知り合いですか？「私も調子悪くなつたけど、この子が」とハスキー犬を指差す。「目から血が出て、獣医に見せたら「カ



咳が止まらない、のどが痛い、鼻水が：住民たちは口々に体調不良を訴えた



処理工場に次々と運び込まれる廃プラスチック

いにおいがして、のどが痛くなり、眠れませんでした。翌朝、今度は目がはれて顔の形相が変わってしまいました。病院へ行くとすぐに点滴。39度近い熱が出て、その日から毎日病院へ通っています」

被害者が集団発生している。これはもう「寝屋川病」だ。住民たちは操業差止めを求める裁判を起こしている。判決は来春。人間の命に関することだけに、事態

は深刻。本来は寝屋川市と大阪府が、この業者を規制するべきだったと感じる。さてわが吹田市も、東御旅町に廃プラ処理施設が建設されようとしている。この工場のすぐ裏には保育園、周囲は工場跡地に建設されたマンションだ。

吹田では東御旅町に初めての「廃プラスチック工場」建設がすすんでいる

「廃プラ処理施設反対！」の声もむなしく、吹田市長はこの業者に建設許可を下ろし、操業はすでに秒読みに入っている。今からでも遅くない。吹田市として調停に入り、業者に対して、操業させないような指導をするべきだと思うのだが。



吹田でも、廃プラ工場が作られてしまった。寝屋川のようにならなければいいが…



豊津第一小学校にたてられた記念碑。台風の怖ろしさを子どもたちに伝えてあげられている。



一瞬のうちに何がなんだか判らなくなり、真っ暗闇のなかに閉じ込められた。

室戸台風の児童遭難

勝手に吹田遺産 その5

昭和9年9月21日の朝、巨大な室戸台風が大阪をおそった。いまのような天気予報は無く、大阪測候所(現在の気象台)でも、上陸する予測が立てられたのが20日の夜中だった。明け方の小雨天気があつと言つまに風速60メートルの暴風雨に変わり、高潮をともなつて大阪に大災害をもたらしたのだ。

吹田ではこの台風で岸辺小学校と豊津小学校の木造2階建て校舎が一瞬にして倒壊、岸部小では28人、豊津小では51人の児童と2人の教師が犠牲となった。現在南吹田に住むYさんは当時、豊津小で校舎の下敷きになって救出された児童の1人である。「うる覚えだけれど」と言いながら、その時の恐怖を語ってくれた。「僕は豊津小学校の1年生だった。あの日は朝から小降りの雨が降っていて、村から4人で学校へ行った。校門に入る頃は本降りになつ